2025 年度 卒業式・学位記授与式 告辞

下関市立大学 学長 韓 昌完

2025 年度の卒業式・学位記授与式において、下関市立大学は学部４４１名の卒業生と、大学院から１１名、特別支援教育特別専攻科から２名の修了生を社会に送り出します。本日は、皆さんと卒業まで励まし支えてこられたご家族の方々に、大学を代表して心からお祝い申し上げます。また、下関市長 前田 晋太郎 様、ならびに下関市議会議長 林 真一郎 様にご臨席を賜り、この良き日を迎えられましたこと大変嬉しく思います。

皆さんが旅立つ社会は、これまでの人類が経験したことのない速度で変化しており、誰にも予測できないほどに複雑で不確実なものになっています。急速な技術進歩や AI の進化、国際社会の変化などによって思いがけない成功を手にする可能性もあれば、予測不可能な気候変動や社会情勢などで、かつてないほどの課題に直面する可能性もあります。過去の成功体験やロールモデルが通用しない時代に、皆さんがどのような場面でもより良い選択ができるよう、3 つのメッセージを贈ります。

第一に、「道を見よ」ということです。

2026 年は、冬のオリンピックが開催されました。アルペンスキー金メダル選手は最高時速 129 キロで駆け抜けたそうですが、高速の世界で戦うスキー選手の世界にはこんな教えがあるそうです。「『木を避けろ』と考えると、目には木しか映らなくなる。しかし『雪の道を見ろ』と考えれば、木と木の間に十分なスペースがあることに気づける」と。

私たちの脳は、「～してはいけない」という否定形をうまく処理できません。「失敗するな」と念じるほどに失敗する姿が頭に浮かび、「障害物にぶつかるな」と意識するほど、そこに吸い寄せられてしまいます。

これからの社会、多くの障害物が待ち構えているでしょう。しかし、それらの障害物を意識すればするほど視界は狭くなり、障害物しか見えなくなります。大切なのは、目の前の木々ではなく、その先にある「道」を見ることです。あなたが通りたいと思う「道」に集中すれば、自然と進むべき方向に行動が定まり、実は十分に通れる道があることに気づけるはずです。「問題を避けよう」ではなく、「自分が進みたい道を見よう」。これが、皆さんへの最初のメッセージです。

第二に、「完璧を目指さない勇気」についてです。

生物学に、興味深い知見があります。35 億年という進化の歴史において真っ先に絶滅してきたのは、「環境に完璧に最適化された生物」でした。逆に長く生き残ってきたのは、一見すると「無駄」や「弱点」を持った不完全な生物たちです。3 億 7500 万年前に陸へ進出した魚たちは、肺や手足のようなヒレを持っていたために、水の中では決して強者ではありませんでした。しかし、環境が激変したとき、この「無駄」が生き残るための保険となり、

やがて水中の魚を狩るための手へと進化したのです。

何が起きるかわからない自然は、100%適応するよりも、「十分に良い（Good Enough）」程度の緩さを好みます。なぜなら、その緩さこそが、未来の危機に対して全滅を回避する備えになるからです。

皆さんはこれから、効率と成果を求められ、最適解を要求される社会に出ていきます。しかし、今すぐ役に立たないように見える経験、遠回りに思える学び、一見無駄に見える余白。それらこそが、予測できない未来において皆さんを救う保険になるかもしれません。柔軟さ、余白、適度な不完全さ。これらを恐れず、むしろ大切にしてください。

第三に、「世界とつながり続ける」ということです。

本学は、激化する大学間競争や地方公立大学としての社会的・財政的な限界に直面しながら、今まさに挑戦の最中にあります。その中で掲げた SCU Vision 2040 のもと、世界への道を切り拓いてきました。下関という地方都市から、世界中のどこへでもつながるレールを敷いています。このレールの上を、人・知識・ビジネスが双方向に流れていくでしょう。そしてそのレールは、もちろん卒業生にも延びています。

また、本学は未来を見据え、データサイエンス学部、看護学部という新たな学部を開設し、地域社会が必要とする人材を育成する道を切り拓きました。リカレント教育プログラムだけでなく、産学官金連携による地域課題解決、大学発ベンチャーの設立、博士課程の新設申請など、本学を一度卒業した後でも大学との関わりが結ばれるような様々な環境づくりにも挑戦しています。皆さんがどこで、どのような人生を歩むことになっても、下関市立大学の卒業生であるという事実は変わりません。新しい世界が見たいとき、助けが必要なとき、いつでも戻ってきてください。そして、ぜひ皆さん自身が世界と下関をつなぐ架け橋になってください。

変化が激しく不確実な時代だからこそ、本学は、"誰かのあとをなぞる"のではなく、「あくなき挑戦」の旗を掲げて"自らの道を切り拓く"道を選び続けています。障害物ではなく進むべき道を見つめ、完璧よりも柔軟さを大切にしながら、世界とつながることで本学だけでは成しえない未来を目指す。それは、皆さんに贈った三つのメッセージを、本学自身が体現しようとしている姿でもあります。

皆さんも、どうか自分だけの道を見つけ、不完全さを恐れず、世界とつながりながら歩んでいってください。

卒業生の皆さんの前途が、豊かな人生を拓く素晴らしい道のりとなることを心より祈念し、告辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。